

マーケットの動き (2022年11月14日～11月18日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は小幅に上昇しました（債券価格は下落）。前週末の海外の金利上昇を受け超長期債中心に金利が上昇しましたが、10月の米国PPI（卸売物価指数）が市場予想を下回ったことなどが好感され金利は低下しました。17日に実施された超長期国債の入札を波乱なく終えたことで超長期債は買いが優勢となりましたが、17日にFRB（米国連邦準備制度理事会）高官が金融引き締めに積極的な姿勢を示したことなどから再度金利が上昇しました。

投資環境見通し (2022年11月)

国内長期金利は、日銀の許容する変動幅の上限近辺で推移

海外金利がインフレを背景に高止まりし、日銀総裁の任期満了が近づくにつれて将来的な金融政策の修正観測が根強いものの、日銀は現行の緩和的な金融政策を当面継続するとみられることから、国内長期金利は日銀が許容する変動幅の上限近辺で推移するとみています。

	11月18日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.24	0.01	▲0.00	▲0.00	0.17
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	373.40	▲0.03%	0.48%	▲1.52%	▲3.49%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

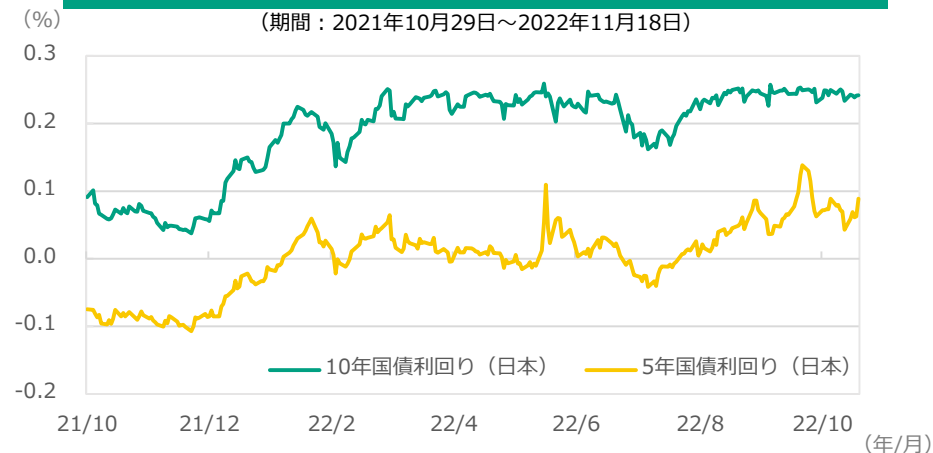
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202211_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2021年10月29日～2022年11月18日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2021年10月29日～2022年11月18日）



※2021年10月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成